

前期 学校評価アンケート結果について

京都市立石田小学校
校長 豊田 寿美夫

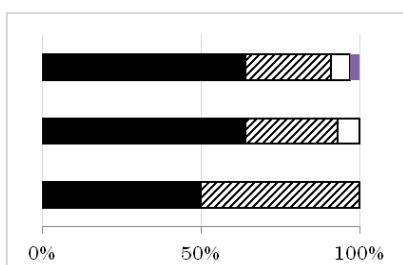
日ごとに秋の深まりを感じる季節になりました。保護者の皆様には、日頃より石田教育にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。

さて、過日実施しました前期学校評価アンケートの集計結果をお知らせします。今回のアンケート回収率は87%で、前回よりも10%以上向上しました。お忙しい中ご協力いただき有難うございました。このアンケートの結果を基にして、子どもたちをよりよく育てていくために保護者、学校、地域が協力して取り組んでいきたいと思います。

1  よくあてはまる 2  ややあてはまる 3  あまりあてはまらない 4  まったくあてはまらない

1. 楽しい学校

児童	学校生活は楽しい。
保護者 地域	子どもたちは、学校で楽しく生き生きと過ごしている。
教職員	子どもたちは、学校で楽しく生き生きと過ごしている。



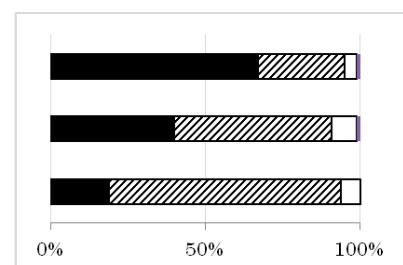
学校が楽しいと感じている児童の割合は1, 2合わせて91%で多くの児童が学校生活を楽しいと答えています。しかし、9%の児童が3や4を選択していることを重く受け止め、その原因をしっかりと見つめ、これからも教職員一同より楽しい学校を目指して取り組んでいきます。

「先生は、ていねいにわかりやすく教えてくれる」(1)と感じている児童は67%ですが、教職員は19%と低い割合です。昨年度より5・6年生の算数は習熟度別の授業をスタートしてより一層個々の課題に応じた指導に努めていますが、まだまだ授業研究の必要性を感じる教員の意識の表れと考えています。研究教科の図画工作科から広げて各教科の授業が子どもたちにとって分かれる楽しいものになるようにさらに研究を進めています。

「授業での学習がわかる」に対して児童の1の割合は39%、2の割合は49%となっており、保護者や教職員はさらに大きな課題を感じています。基礎基本の学力を定着させるために日々の授業を大切にすると共に、朝読書・昼学習等を活用して基礎学習に取り組んだり、国語に限らず色々な教科や学校生活の色々な場での言語活動を増やし、コミュニケーション力を高める取組を進めたりしています。

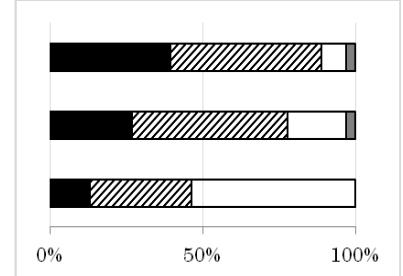
2. 授業研究

児童	先生は、ていねいにわかりやすく教えてくれる。
保護者 地域	学校は、子どもにわかりやすく授業を進めている。
教職員	学校は、子どもにわかりやすく授業を進めている。



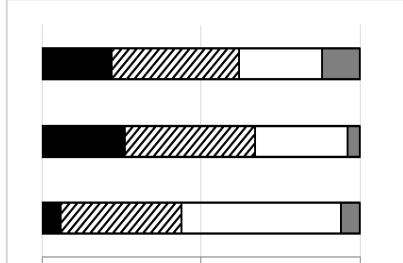
3. 学力向上

児童	授業での学習がわかる。
保護者 地域	子どもたちは、基礎学力が身についている。
教職員	子どもたちは、基礎学力が身についている。



4. 家庭学習

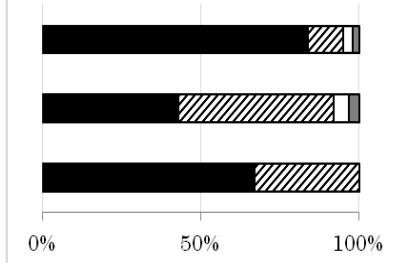
児童	自分から進んで家庭学習をしている。
保護者 地域	子どもたちは、家庭学習の習慣が身についている。
教職員	子どもたちは、家庭学習の習慣が身についている。



「家庭学習の習慣づけ」については、児童、保護者、教職員ともに課題を感じています。学力向上の課題とも関わりの大きい項目ですが、1と答えた割合が昨年度よりもさらに減っていることを大変重く受け止めたいと思います。今後さらに保護者の方と連絡を取り合いながら、個々の課題に合わせた適切な取組を進めると共に、教職員側の指導力の向上も必要だと考えます。

5. 学校行事の充実

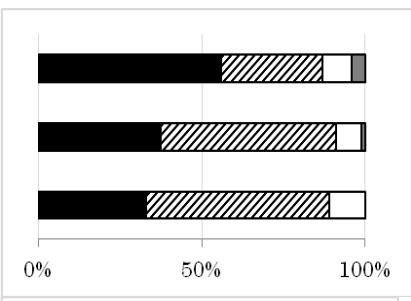
児童	学校の行事（運動会・遠足・石田タイムなど）は楽しくやりがいがある。
保護者 地域	運動会・宿泊行事等の学校行事は充実している。
教職員	運動会・宿泊行事等の学校行事は充実している。



「学校行事の充実」については、児童、保護者・地域、教職員ともに肯定的な評価が多く、特に児童は1の割合が84%です。児童一人一人に主体的に取り組めるように指導を進めていることや、体験的な活動を多く取り入れていることが要因の一つだと考えています。今後も児童に自信を持たせることができるような取組を進めていきます。

6. 思いやり・協力

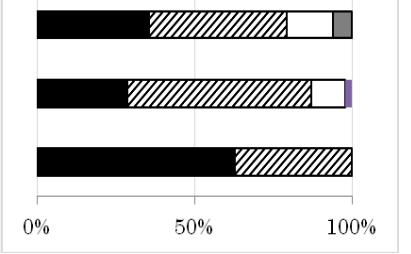
児童	友だちと協力して仲よく学校生活を送っている
保護者・地域	子どもたちは、友だちを思いやり仲良く協力している
教職員	子どもたちは、友だちを思いやり仲良く協力している



児童は、1と2を合わせて87%が「友だちと協力して仲よく」できていると感じています。しかし、保護者では9%，児童では13%が「あまり仲良く協力できていない」と感じていること、さらには児童の3・4の割合が昨年よりも少し高くなっていることを重く見ていくたいと考えています。集団で仲良く協力することで、より達成感が感じられるような取組をさらに進めていきます。

7. 規律・マナー

児童	進んでいいさつや後片付けをし、ルールやきまりを守って生活している
保護者・地域	学校は、集団での規律やマナーなどが身につくような取組を進めている
教職員	学校は、集団での規律やマナーなどが身につくような取組を進めている

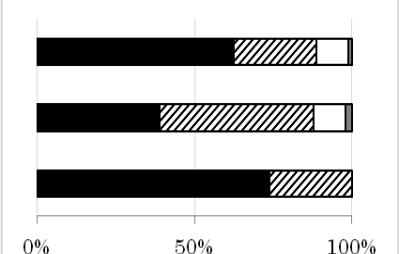


本校では、規範意識の育成として、あいさつ・後片付け・学習規律の徹底に力を入れています。アンケート結果では、1または2の回答は、教職員では100%なのに対し、保護者・地域では88%，児童では80%に留まっています。今後も教職員全員が同じ意識で指導の徹底を図ります。そして、掃除や道徳の時間も大切にしたり、児童会からよびかけたりして、児童の規範意識の育成に力を注ぎます。

「健康や安全・体力向上」の取組については、1と2を合わせて児童及び保護者・地域は88%，教職員は100%と肯定的な評価です。「朝マラソン」や「部活動」への取組が熱心であることを受けてのことだと思われます。今後もそれらを通じて児童に自信を持たせることができるように指導を続けていくと共に健康・安全に対する意識の向上も目指してさらに取組を進めています。

8. 健康・安全・体力

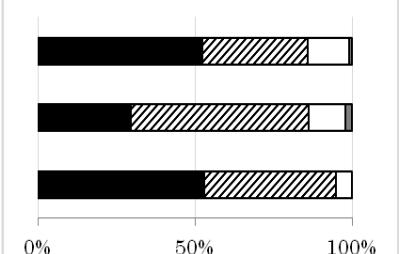
児童	健康や安全・体力向上に気をつけて学校生活を送っている
保護者・地域	学校は、子どもの健康や安全・体力向上の取組を進めている
教職員	学校は、子どもの健康や安全・体力向上の取組を進めている



本校の教育目標「一人一人が明るく生きる学校」を実現するために、一人一人の良いところを徹底的に認め、自信をつける取組を進めたり、児童や保護者の「困り」を把握するために徹底的に話を聞いたりすることにしています。児童は86%，保護者・地域は87%が肯定的に受け止めておられます、児童は14%，保護者・地域は13%が不十分と受け止めていることを認識し、さらに取組を見直していきます。

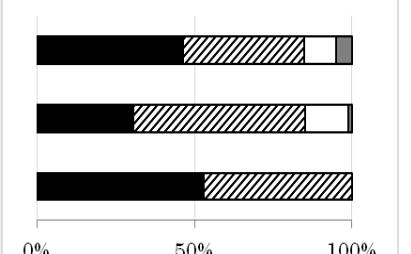
9. 一人一人を大切に

児童	先生は、学習やその他の活動で自分が努力したことを探めてくれる
保護者・地域	学校は、子ども一人一人を大切にした教育活動を行っている
教職員	学校は、子ども一人一人を大切にした教育活動を行っている



10. 相談

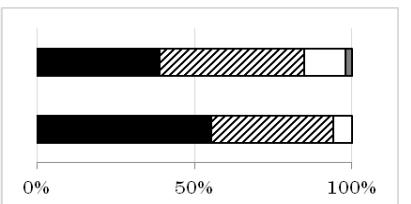
児童	先生は、困ったときに相談にのってくれる
保護者・地域	学校は、子どもや保護者の思いを受け止め、相談に適切に応じようとしている
教職員	学校は、子どもや保護者の思いを受け止め、相談に適切に応じようとしている



9番の項目と似通った結果になっていますが、児童の3と4を合わせた割合が15%あることを重く受け止めたいと思います。一人一人の困りに気付き、適切に相談に応じることができるよう、今後も教職員一人一人の力量を高めることに努力するとともに相談しやすい環境づくりに努めます。

11. 情報発信

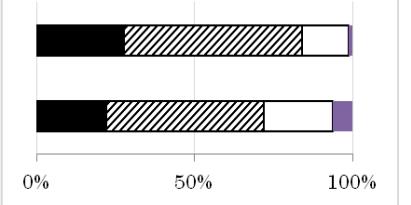
保護者・地域	学校は、教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている
教職員	学校は、教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている



本校では、学校便りや学級だより、ホームページ、校内掲示板等を充実させたり、懇談会で伝えたりして学校の取組についての情報発信に努めています。教職員では1と2を合わせて95%あるのに対し、保護者・地域では85%に留まっています。今後は学級懇談会への出席率を上げるためにその内容を充実させ、教育方針や学校での取組内容をもっとわかりやすく伝えたり、個別への情報発信をさらに大切にしたりするよう努めています。

12. 学校・家庭・地域の連携

保護者・地域	学校・家庭・地域で協力して子どもの教育にあたっている
教職員	学校・家庭・地域で協力して子どもの教育にあたっている



子どもの教育には学校・家庭・地域の連携が欠かせません。しかし、1や2と回答した肯定的な評価は、教職員が72%，保護者・地域85%ですが、特に1を選んだ割合はどちらも高いとはいえないません。よりよい子どもの教育のために、双方のそれぞれの思いや願いを伝え合い話し合って、手を携えて取り組んでいく事が大切だと考えています。